

前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

本年度の 重点目標	災害に対する意識を高め、校内体制を確立する。 効率的・効果的な業務改善を行う。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
一人一人の 教育的ニーズに 応じた指導・支援 を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や学習の内容段階表による授業づくりを行い、指導と評価の一体化を図る。 ・計画的・組織的な交流及び共同学習を積極的に推進する。 ・校外学習等の体験学習に積極的に取り組み、社会性や共に生きる力の育成を図る。 ・小学部から高等部までの一貫したキャリア教育の充実に努める。 ・児童・生徒会活動に取り組み、問題解決能力の育成や成就感の獲得に努める。 ・外部専門家や関係諸機関(学識経験者、医師、看護師、PT、OT、ST等)との組織的連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の内容段階表を活用した各教科等を合わせた指導の授業改善—チームで取り組む授業づくり—」というテーマで校内研究に取り組む。 ・学校間交流及び居住地校交流は、児童生徒の主体的性を重視し、直接的な関わりを促す。 ・各部、各教科の学習が効果的に行えるように、個別の指導計画の年間指導計画に記載する。 ・卒業後の必要な力について、積極的に発信し、キャリア教育の視点を学習活動に取り入れていくように促す。 ・児童・生徒会活動の目的(校訓「エチカ」を基にどんな学校にしたいか)と目標(目的を実現するために何ができたらいのか)を児童生徒と教員が協力して設定し、そこにひも付けた具体的な活動を児童生徒が主体的に展開する。 ・刈総セラピストとのケーススタディなどを通して、外部専門家と意見を出し合う機会を重ねることで専門性の確保に努め、助言内容を生かした多角的な視点での授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部二つから三つのチームを編成し、教職員間での話し合いを通じて授業改善を繰り返した。次年度は授業公開日や研究協議の機会を設けるなど、各部の取組の共有を図ったり、授業改善のための話し合いを更に有意義にしたりできるようにする。 ・交流及び共同学習では、担当者や担任を中心に児童生徒が主体的に参加できるように活動内容を調整、実施した。次年度も、相手校と密に連携を図りながら児童生徒が主体的に参加できる活動内容を検討していく。 ・個々の体調に合わせ、時期を調整することや医療的ケアと連携することで、校外学習に積極的に取り組むことができた。一年を通して児童生徒の意欲的な姿が多く見られた。 ・進路だよりや進路懇談会等の資料に卒業後に必要な力について掲載し、教員に提示した。中学部・高等部では、キャリア教育を意識した授業や生徒との関わりが多く見られた。小学部段階のキャリア教育の視点を生かした授業づくりが課題である。 ・児童生徒の主体性を引き出せるよう、児童・生徒会活動が目的と目標に向かっているかどうかを確認し、適宜助言する。また、児童生徒が成就感を得られるように、役員による主体的な計画立案や振り返り等を行う。 ・校内職員での実践事例検討の機会を設定することで、多角的な視点からの意見交換が行われ、授業改善の手だてとなった。専門家の助言内容等を他の児童生徒の指導や支援にも生かすことができるような工夫が次年度の課題である。
信頼される 学校づくり を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、医療・福祉関係者、施設・事業所等関係者、地域住民等による学校評価を実施し、学校運営の改善に努める。 ・保護者・地域の各関係者等との情報のやりとりを密にし、教育活動の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・教職員アンケートの分析や学校評価を多角的な視点で行い、まとめたものを学校運営の改善に生かす。 ・要請訪問相談(かりとく相談)、障害乳幼児相談(かもめ相談)などにより、地域の小・中学校や障害のある乳幼児の保護者などに積極的な支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・教職員アンケートは、昨年度よりも回答数が増え、多くの意見を反映させた学校評価を学校運営協議会で提示することができた。 ・相談窓口について地域の小・中学校や高等学校、関係諸機関にチラシを配付、ホームページに掲載して提示した。相談に赴く前に相談内容について検討し、多様

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における特別支援教育のセンター的機能の整備・充実を図る。 	<p>を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に実施する刈谷市特別支援教育研修会では、特別支援教育に関する今日的な課題を提起し、特別支援教育への理解を深める会になるように実行委員会で十分に検討する。 	<p>な視点で支援方法を提示できるようにした。引き続き、様々な相談に対応できるように教員の専門性の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回、地域の特別支援教育に関わる教職員を対象に連絡会、相談会を開催した。次年度も、様々な講師の講演を聞ける機会と地域の特別支援教育に関わる教職員が繋がる機会を設定できるようにする。 ・刈谷市特別支援教育研修会は、地域の小・中学校のニーズに沿った内容で実施することができた。次年度は、午後日程で開催するなど、持続可能な形で実施できるようにする。
一人一人の安全・安心な教育環境の整備に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等に対する組織体制を整え、健康・安全教育の推進に努める。 ・医療的ケアの安全な実施体制の整備に努める。 ・食に関する指導の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等の非常事態に備え、防災・防犯訓練や研修等を実施し、課題を見出す。 ・災害時の医療的ケアのある児童生徒の待機場所や電源確保、避難時の動き方について整理し、職員に周知する。 ・食に関する指導の全体計画をとおして、年間指導計画に食に関する指導を反映できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市の危機管理課の協力で、本校の危機管理マニュアルを見直す機会を得た。今後、防災気象情報の変更等、最新の情報を盛り込んだマニュアルになるように改訂していく。避難訓練や不審者対応訓練を通して、マニュアルに沿った非常時の動きを各自がイメージしておく等、防災・防犯への意識をより高める。 ・「医療的ケア防災関連ファイル」を作成し、災害時の対応に関する書類をそれぞれの教職員が確認し、災害が発生した際に、迅速かつ正確に判断・対応できるようにした。災害時に医療的ケアで必要となる物品を整理し、準備した。来年度は非常用物品を実際に使用したシミュレーションを実施する。 ・食に関する指導の全体計画に基づいて、年間を通して食に関する授業を実施した。また、栄養教諭も家庭科等の授業に参加し、内容を深めることができた。今後も栄養教諭と連携し、指導の充実に努める。
効率的・効果的な業務改善を進め、授業づくりの充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・Teams や WinBird を積極的に活用し、情報の共有化による業務の効率化を図る。 ・教員の資質向上のため動画コンテンツを作成し、個々の裁量による研修の進め方を推進する。 ・校務分掌間の連携を密にし、業務の平準化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有においてグループウェアを積極的に活用することで、会議や打合せの時間を削減する。 ・全校研修及び任意研修の様子を動画に撮り、「かりとく動画視聴システム」上にアップする。適宜教職員に呼び掛けて、研修の実施を促す。 ・各校務分掌における繁忙期に、他の校務分掌が応援をするような組織風土を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアの活用により、朝の職員打合せの時間を短縮することができた。会議については、提案方法を更に工夫し、質を高めていく。 ・全校研修は、名簿を付けて参加者を把握し、当日参加できなかった教職員は動画を視聴することで受講することができた。次年度も各研修を動画で記録し、多くの教職員が受講できるようにする。 ・行事や会議の際には、分掌の担当者間で連携する意識をもち、協力して業務に当たることができた。
総合評価	<p>「一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援」では、校内研究や実践事例研究等を通して、授業改善を進めた。「信頼される学校づくりの推進」では、特別支援教育のセンター的機能として、地域のニーズに対して円滑な対応ができた。「一人一人の安全・安心な教育環境の整備」は、医療的ケアにおける看護師と教員との協働、最新の情報を盛り込んだ危機管理マニュアルの改訂、食に関する指導の充実に成果が見られた。「効率的・効果的な業務改善」では、朝の職員打合せ時間の短縮や効率的な業務の改善を進めることができた。</p>		